

marantz®

Model PM-12 取扱説明書

Integrated Amplifier

目次

使用上のご注意	2
携帯電話使用時のご注意	2
お手入れについて	2
結露(つゆつき)について	2
付属品	3
リモコンについて	3
乾電池の入れかた	3
リモコンの使いかた	3
特長	4
高音質	4
多彩な機能	4
各部の名前	5
フロントパネル	5
リアパネル	6
リモコン	7
接続のしかた	9
スピーカーを接続する	9
スピーカー接続	10
再生機器を接続する	10
録音機器を接続する	10
PM-12 を複数台接続する(F.C.B.S.接続)	11
F.C.B.S.接続の準備	11
ステレオコンプリートバイアンプ接続	12
5.1 マルチチャンネルの接続	14
プリアンプを接続する	15
リモートコントロール端子付きの機器を接続する	16
マランツ製オーディオ機器をリモート接続する	16
電源コードを接続する	16

再生のしかた

電源を入れる	17
入力ソースを選ぶ	17
音量を調節する	17
一時的に音を消す(ミュートイング)	17
音量バランス(LEVEL)および音質(BASS/TREBLE)を調節する	18
ディスプレイの明るさを切り替える	19
イルミネーションランプを消灯する	19
CD を再生する	19
録音する	19

設定のしかた

メニュー一覧	20
メニューの操作のしかた	20
PHONO	21
AUTO STBY(Auto Standby)	21
ATT LEVEL (Attenuation Level)	21

困ったときは

こんなときの解決方法	23
故障かな?と思ったら	24
エラーメッセージについて	26
保証と修理について	27

付録

用語の解説	28
主な仕様	29
索引	31

使用上のご注意

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、やわらかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露(つゆつき)について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部(動作部)に水滴が付くことがあります(結露)。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1～2 時間放置してから使用してください。

ステレオ音のエチケット





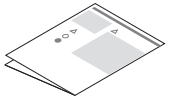
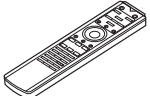
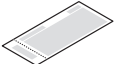

- 隣近所への配慮(おもいやり)を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

お買い上げいただきありがとうございます。
 本機をご使用になる前に、必ずこの取扱説明書をお読みください。
 お読みになったあとは、いつでも見られるところに「安全にお使いいただくために」・「保証書」とともに大切に保管してください。
 本書は Web ブラウザ上でもご覧いただけます。タブレットまたはパソコンから、Web ブラウザを立ち上げて、次の URL を入力してください。
manuals.marantz.com/PM12/JP/JA/



付属品

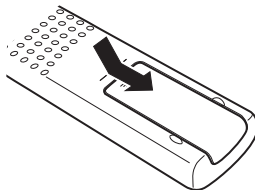
ご使用になる前にご確認ください。

 取扱説明書(本書)	 電源コード【本機専用】
 安全にお使いいただくために	 リモコン (RC005PMSA)
 保証書	 単4形乾電池(2本)

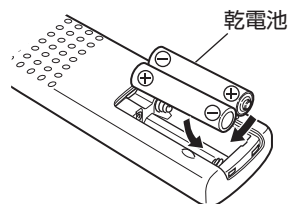
リモコンについて

乾電池の入れかた

1 裏ぶたを矢印の方向へスライドして取り外す。



2 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。



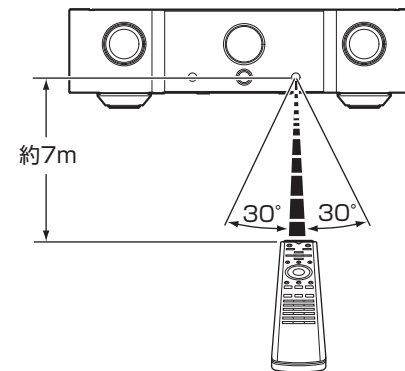
3 裏ぶたを元どおりにする。

ご注意

- 破損・液漏れの恐れがありますので、
 - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
 - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けて使用してください。



特長

高音質

- **HDAM®SA3 モジュール**
HDAM®SA3 は、電流帰還型アンプの要となるアンプモジュールです。最重要部である電圧から電流変換部に搭載し、回路の安定度を向上させ、ハイスピードサウンドを支えます。
- **リアコントロール・ボリューム**
JRC 社製ボリューム IC と HDAM®SA3 を組み合わせ、低歪、高 S/N を実現しました。0～99.5dB の範囲を ±0.5dB 刻みでスムーズにコントロールします。
- **Hypex 社製スイッチングパワーアンプモジュール**
パワーアンプには、Hypex 社製 NCore®スイッチングパワーアンプモジュールを採用しています。低域から高域に至るまで歪が少なく、スピーカーのインピーダンスにかかわらず周波数特性が変化しない、非常に優れた性能を備えたスイッチングアンプモジュールです。HDAM®SA3 を使用したハイスピードなプリアンプ回路と組み合わせることにより、DSD やハイレゾ音源の持つきめ細かな情報を忠実かつ精緻に描き出します。
- **Marantz Musical Premium Phono EQ**
よりアナログらしい、リッチなサウンドのために MM/MC カートリッジ対応のフォノイコライザー「Marantz Musical Premium Phono EQ」を開発しました。本回路には、新開発の HDAM を使用した無帰還型のイコライザーアンプと MC ヘッドアンプを採用しています。また、J-FET 入力を採用することにより入力カップリングコンデンサを排除し、小信号部分での信号経路の純度を向上させました。
- **高音質パーツの採用**
高音質メルフ抵抗やフィルムコンデンサをはじめとして、回路の随所に高音質部品を採用しています。
- **ダブル・レイヤード・シャーシ**
- **高級銅削り出しアナログ音声入力端子 (CD/PHONO のみ)**
- **高級銅削り出しスピーカー端子**

多彩な機能

- **F.C.B.S.制御**
F.C.B.S. (Floating Control Bus System) は PM-12 を最大 4 台まで接続して連動動作させる機能で、コンプリートバイアンプやマルチチャンネルなど多彩な用途で使用することができます。また PM-12 を複数接続しても、PM-12 同士でアースループが生じないため、音質に悪影響を与えません。
- **バイアンプモード**
マランツが提案するコンプリートバイアンプ接続はこれまでにない音場空間の再現が可能です。PM-12 を 2 台接続し、それぞれをモノラル・インテグレートッドアンプとして動作させるバイアンプモードに設定して、F.C.B.S. (Floating Control Bus System) 制御で連動動作します。
- **パワーアンプモード**
プリアンプと接続し、本機をパワーアンプとして使用できるパワーアンプモードを搭載しています。
- **トーンコントロールアンプ**
BASS (低音) と TREBLE (高音) について、±6dB の範囲を 1dB 刻みで調節可能な電子式トーンコントロールアンプを搭載しました。

はじめに

接続のしかた

再生のしかた

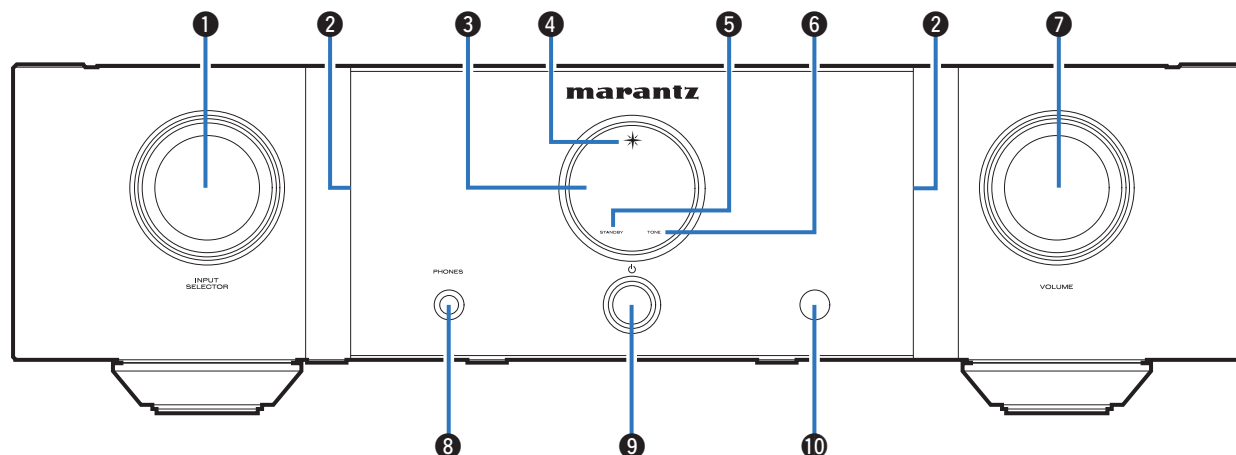
設定のしかた

困ったときは

付属

各部の名前

フロントパネル



① 入力ソース切り替えつまみ (INPUT SELECTOR)

入力ソースを切り替えます。(P.17 ページ)

② イルミネーションランプ

電源をオンにすると青色に点灯します。

③ ディスプレイ

各種情報を表示します。

④ 電源表示

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 電源オン時: 青色
- スタンバイ時: 消灯
- 電源オフ時: 消灯

⑤ スタンバイ表示 (STANDBY)

電源の状態によって、次のように点灯します。

- 電源オン時: 消灯
- スタンバイ時: 赤色
- 電源オフ時: 消灯

⑥ トーン表示 (TONE)

トーンコントロールをオンにすると青色に点灯します。

(P.18 ページ)

⑦ 音量調節つまみ (VOLUME)

音量を調節します。(P.17 ページ)

⑧ ヘッドホン端子 (PHONES)

ヘッドホンを接続します。

ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカー端子から音が出なくなります。

ご注意

- ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

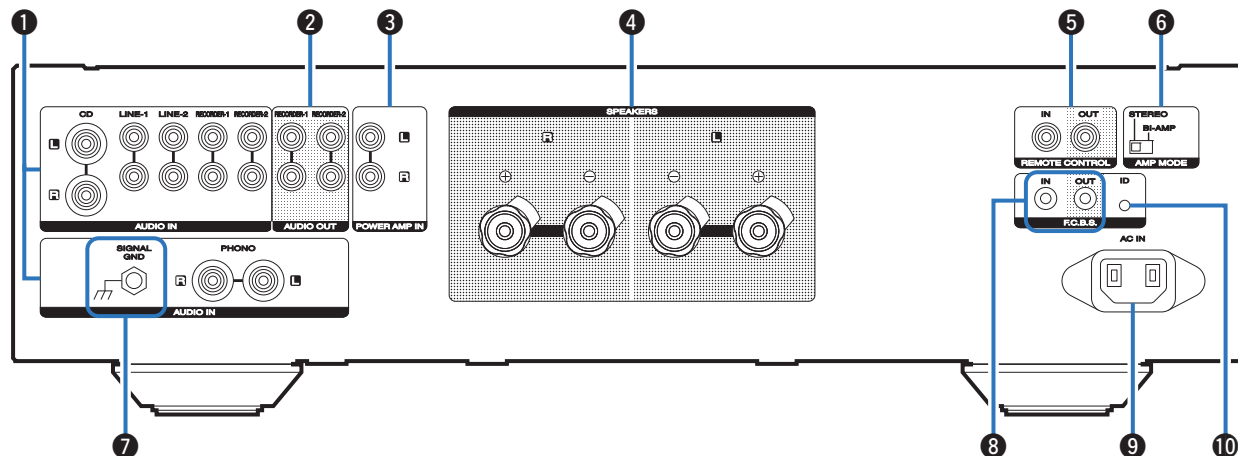
⑨ 電源ボタン (⏻)

本機の電源をオン/オフします。(P.17 ページ)

⑩ リモコン受光部

リモコンからの信号を受信します。(P.3 ページ)

リアパネル



① アナログ音声入力端子(AUDIO IN)

アナログ音声出力端子付きの機器を接続します。

- 「再生機器を接続する」(10 ページ)
- 「録音機器を接続する」(10 ページ)

② アナログ音声出力端子(AUDIO OUT)

録音機器の入力端子を接続します。(10 ページ)

③ パワーアンプ入力端子(POWER AMP IN)

本機をパワーアンプとしてご使用になる場合に、プリアンプを接続します。(15 ページ)

④ スピーカー端子(SPEAKERS)

スピーカーを接続します。(9 ページ)

⑤ リモートコントロール入出力端子(REMOTE CONTROL)

リモートコントロール機能に対応しているマランツ製オーディオ機器を接続します。(16 ページ)

⑥ アンプモード切り替えスイッチ(AMP MODE)

アンプモードを切り替えます(STEREO/BI-AMP)。(12 ページ)

⑦ アース端子(SIGNAL GND)

レコードプレーヤーのアース線を接続します。(10 ページ)

⑧ F.C.B.S.入出力端子

PM-12 を複数台使用した高品位な再生システムの使用に使用します。(11 ページ)

⑨ AC インレット(AC IN)

電源コードを接続します。(16 ページ)

⑩ F.C.B.S. ID ボタン

F.C.B.S. の ID 番号を設定します。(12 ページ)

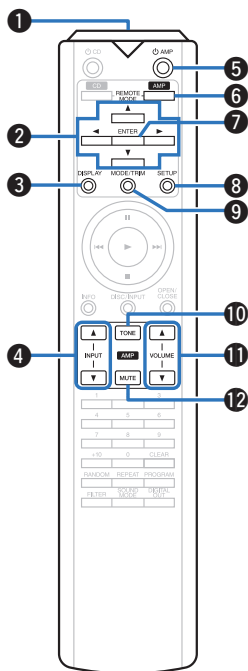
リモコン

付属のリモコンは本機だけでなく、マランツ製 CD プレーヤーも操作できます。

- 「CD プレーヤーの操作」(P.8 ページ)

□ 本機の操作

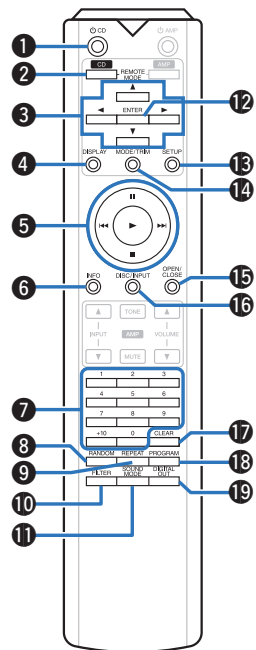
本機を操作するときは、REMOTE MODE AMP ボタンを押して、リモコンを本機の操作モードに切り替えます。



- ① リモコン信号送信窓**
リモコンの信号を送信します。(P.3 ページ)
- ② カーソルボタン(△▽◀▶)**
項目を選択します。
- ③ ディスプレイボタン(DISPLAY)**
ディスプレイの明るさを切り替えます。長押しするたびに、イルミネーションランプの点灯/消灯を切り替えます。
- ④ 入力ソース切り替えボタン(INPUT ▲▼)**
入力ソースを切り替えます。(P.17 ページ)
- ⑤ 電源ボタン(⏻ AMP)**
本機の電源をオン/オフ(スタンバイ)します。(P.17 ページ)
- ⑥ リモートモード AMP 切り替えボタン (REMOTE MODE AMP)**
リモコンの操作モードをアンプに切り替えます。
- ⑦ エンターボタン(ENTER)**
選択した内容を確定します。
- ⑧ セットアップボタン(SETUP)**
メニューの設定をします。(P.20 ページ)
- ⑨ トリムモードボタン(MODE/TRIM)**
音量バランス調節メニューをディスプレイに表示します。(P.18 ページ)
- ⑩ トーンボタン(TONE)**
トーンコントロールのオン/オフを切り替えます。(P.18 ページ)
- ⑪ 音量調節ボタン(VOLUME ▲▼)**
音量を調節します。(P.17 ページ)
- ⑫ 消音ボタン(MUTE)**
消音します。(P.17 ページ)

□ CD プレーヤーの操作

マランツ製 CD プレーヤーを操作するときは、REMOTE MODE CD ボタンを押して、リモコンを CD プレーヤーの操作モードに切り替えます。



- ① 電源ボタン(⏻ CD)
- ② リモートモード CD 切り替えボタン(REMOTE MODE CD)
- ③ カーソルボタン(△▽◀▶)
- ④ ディスプレイボタン(DISPLAY)
- ⑤ システムボタン
- ⑥ インフォメーションボタン(INFO)
- ⑦ 数字ボタン(0 ~ 9、+10)
- ⑧ ランダムボタン(RANDOM)
- ⑨ リピートボタン(REPEAT)
- ⑩ フィルターボタン(FILTER)
- ⑪ サウンドモード切り替えボタン(SOUND MODE)
- ⑫ エンターボタン(ENTER)
- ⑬ セットアップボタン(SETUP)
- ⑭ 再生モード切り替えボタン(MODE/TRIM)
- ⑮ ディスクトレイ開閉ボタン(OPEN/CLOSE)
- ⑯ メディアモード切り替えボタン(DISC/INPUT)
- ⑰ クリアボタン(CLEAR)
- ⑱ プログラムボタン(PROGRAM)
- ⑲ デジタル音声出力ボタン(DIGITAL OUT)



- リモコンの操作モードが CD のときも、入力ソース切り替え、音量調整やミュートなどの基本的なアンプの操作がおこなえます。
- ご使用の際は、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 一部操作ができない製品もあります。

接続のしかた

目次

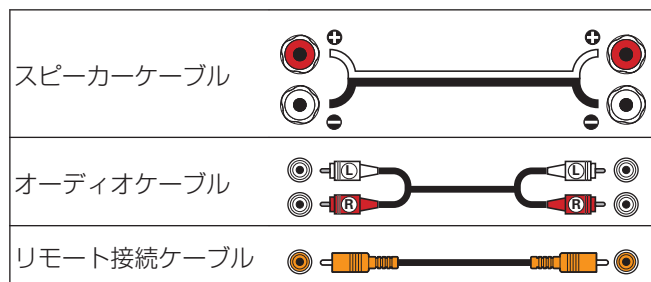
スピーカーを接続する	9
再生機器を接続する	10
録音機器を接続する	10
PM-12 を複数台接続する (F.C.B.S.接続)	11
プリアンプを接続する	15
リモートコントロール端子付きの機器を接続する	16
電源コードを接続する	16

ご注意

- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続ケーブルは、電源コードと一緒に束ねないでください。雑音の原因になります。

接続に使用するケーブル

接続する機器に合わせて、必要なケーブルを準備してください。



スピーカーを接続する

ご注意

- スピーカーを接続する前に、本機の電源プラグをコンセントから抜いてください。
- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、+側と-側が接触したりすると、保護回路が動作します。(「保護回路」(P.28 ページ))
- 通電中は絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- スピーカーは、インピーダンスが4~16Ω のものを使用してください。

スピーカーケーブルを接続する

本機と接続するスピーカーの左チャンネル(L)、右チャンネル(R)、+(赤)、-(白)をよく確認して、同じ極性を接続してください。

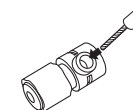
- 1 スピーカーケーブル先端の被覆を10mm程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。



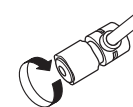
- 2 スピーカー端子を左に回してゆるめる。



- 3 スピーカーケーブルの芯線をスピーカー端子の根元に差し込む。



- 4 スピーカー端子を右に回して締める。

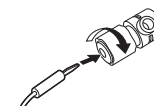


Y ラグ端子

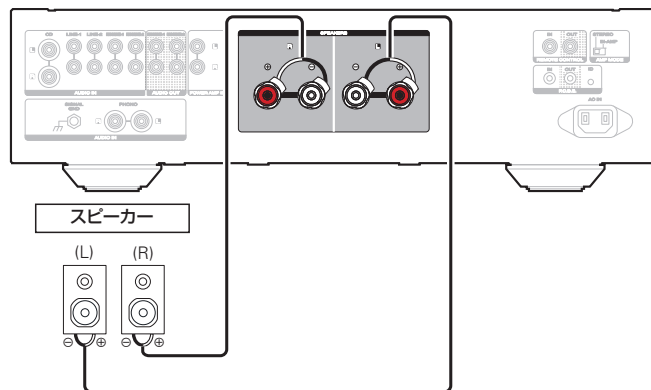


バナナプラグの場合

端子を右に回して締め付けてから挿入する。



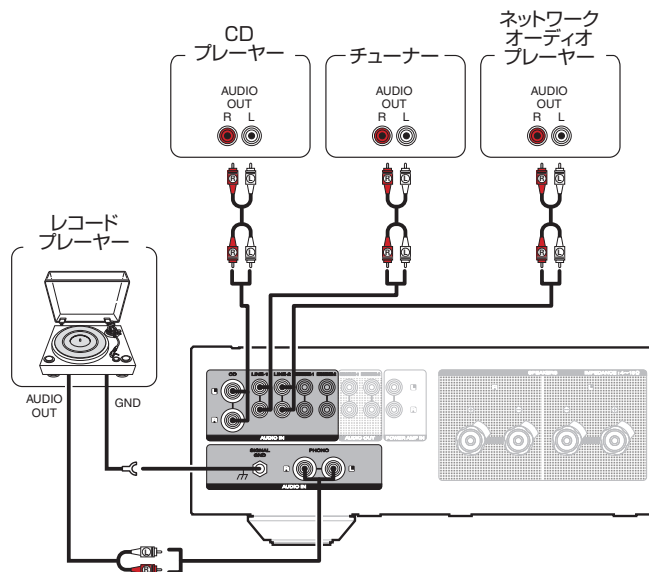
スピーカー接続



再生機器を接続する

本機には、レコードプレーヤー、チューナー、CDプレーヤーおよびネットワークオーディオプレーヤーを接続できます。接続するレコードプレーヤーのカートリッジの種類に合わせ、設定メニューの“PHONO”で本機のフォノイコライザーを設定してください。(P.21ページ)

本機の入カソースを“PHONO”にし、レコードプレーヤーを接続せずに音量を上げると、“ブーン”という雑音が発生することがあります。



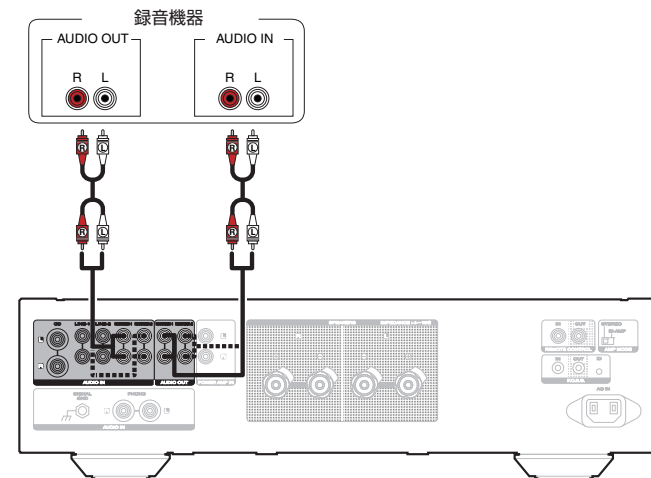
ご注意

- 本機のアース端子(SIGNAL GND)は、安全アースではありません。雑音が多いときに接続すると、雑音を低減できます。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆に雑音が大きくなる場合があります。この場合は、アース線を接続する必要はありません。



- PHONO 入力端子にはショートピンプラグが付属しています。レコードプレーヤーを接続する際は外してください。外したショートピンプラグは大切に保管してください。

録音機器を接続する



ご注意

- レコーダー出力端子(AUDIO OUT RECORDER)にショートピンプラグを挿入しないでください。故障の原因になります。

PM-12を複数台接続する(F.C.B.S.接続)

マランツのシステム制御方式である F.C.B.S.(Floating Control Bus System)では、PM-12 を複数台(最大4台)使用して高品位な再生システムを構築できます。それぞれの機器に ID 番号を設定し、各機器を制御します。

操作をおこなう機器(マスター)と、マスターから出力する操作信号を受ける機器(スレーブ)を、ID 番号で設定します。スレーブには、マスターからの出力信号を受ける順番に ID 番号を設定します。

F.C.B.S.接続する機器に ID 番号を設定すると、入力ソースの切り替え、音量調節、ミュート機能、音量バランス調節、音質調節およびディスプレイの明るさ調節などの連動操作がおこなえます。また、PM-12 を複数台使用する再生システムには、通常ステレオ出力の本機をモノラル出力アンプとして使用する機能もあります。それぞれの接続の説明にしながら設定してください。

F.C.B.S.接続の準備

□ F.C.B.S.接続のしかた

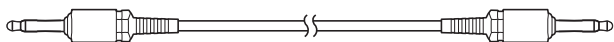
PM-12 を複数台使用した再生システムには、音声接続の他に F.C.B.S.接続が必要です。

各再生システムの接続については、それぞれの接続の説明をご覧ください。

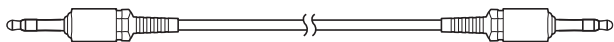
- 「ステレオコンプリートバイアンプ接続」(P.12 ページ)
- 「5.1 マルチチャンネルの接続」(P.14 ページ)

F.C.B.S.接続には、市販されている両端がミニプラグ形状のオーディオ接続用コードを、接続する機器の台数分をご用意ください。接続コードは下記2種類のどちらでもかまいません。

- $\phi 3.5$ モノラルミニプラグ \leftrightarrow $\phi 3.5$ モノラルミニプラグの接続コード



- $\phi 3.5$ ステレオミニプラグ \leftrightarrow $\phi 3.5$ ステレオミニプラグの接続コード

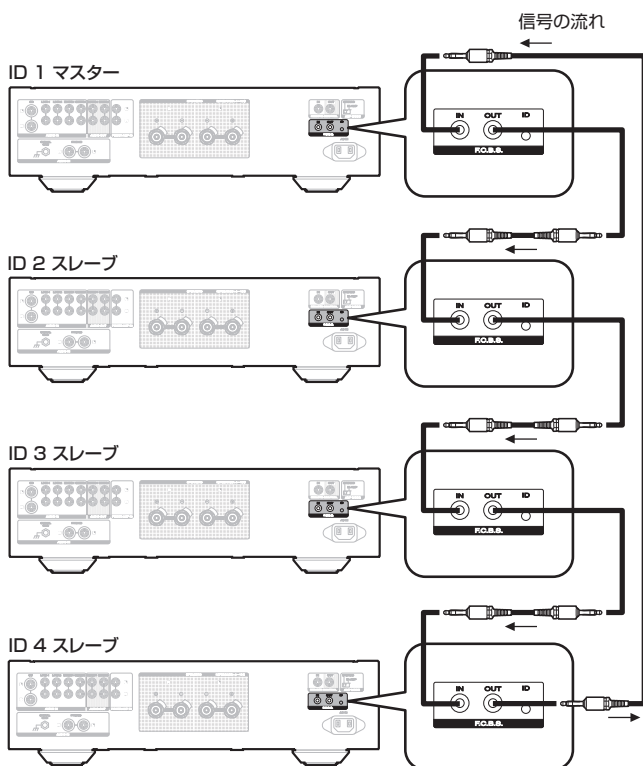


ご注意

- 抵抗入りの接続コードは使用できません。

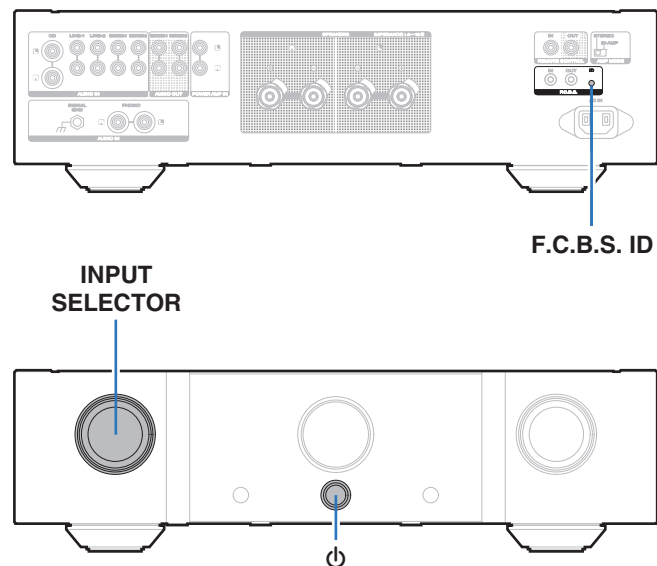
□ 接続例

この例では ID 番号 1 のアンプがマスターとなり、ID 番号 2~4 のスレーブ機器 3 台すべてをコントロールします。



- 本機の F.C.B.S.機能は、PM-12 同士を接続する場合にのみ有効です。
- F.C.B.S.接続した複数台のアンプの電源をオン/オフする場合は、ID 番号の小さいアンプから順に電源をオンにして、ID 番号の大きいアンプから順に電源をオフにしてください。

□ F.C.B.S.のID番号の設定のしかた



1 リアパネルのF.C.B.S. ID を押しながらかを押し。

2 本体のINPUT SELECTOR を回してID番号を選ぶ。

- マスターのID番号を“1”に設定します。スレーブには“2”～“4”のID番号を設定します。

3 電源をオフにする。

4 再度電源をオンにする。

ディスプレイにID番号を約3秒間表示します。

- 本機が設定を記憶します。
- スレーブに設定した機器のディスプレイには“SLAVE”を表示します。



- 本機をステレオアンプとして1台で使用する場合は、ID番号を“0”に設定してください。(お買い上げ時の設定：“0”)
- ID番号を“0”以外に設定した場合は、本機を単独で使用できません。

ステレオコンプリートバイアンプ接続

本機1台に搭載している左右のアンプをひとつのモノラルアンプとして使用できるモード(バイアンプモード)です。2台のPM-12をF.C.B.S.接続して使います。

モードの切り替えは、本機の電源がオフのときにリアパネルのAMP MODEスイッチでおこないます。

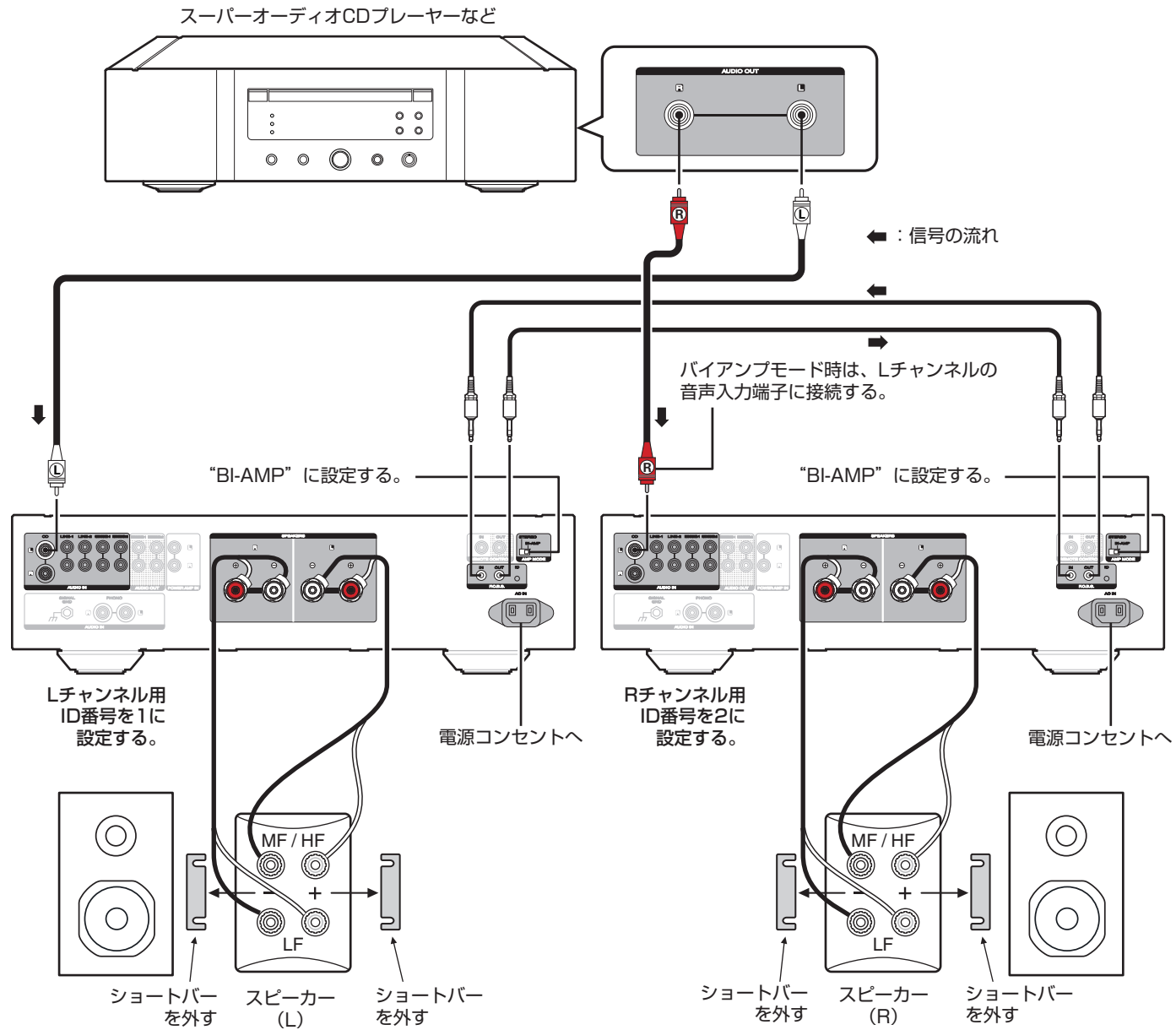
バイアンプモードに設定した場合は、ディスプレイに“BI-AMP”を表示します。

バイアンプモードでは、Lチャンネルの音声入力端子に入力します。Rチャンネルの音声入力端子には入力できなくなります。

左右のスピーカー端子からは同じ音声信号を出力します。



- AMP MODEスイッチは必ず電源をオフにした状態で切り替えてください。電源を再度オンにすることで設定が有効になります。
- バイアンプモード時はRチャンネルの音声入力端子は使用できません。
- バイアンプモード時はLチャンネルに入力した信号を両方のチャンネルに出力します。そのため、RECORDER OUTおよびヘッドホン端子からはLチャンネル、Rチャンネル共に同じ信号を出力します。
- コンプリートバイアンプ接続できるスピーカーは、バイアンプ接続に対応している必要があります。接続する前にスピーカーの取扱説明書をご確認いただくか、スピーカーの製造元にお問い合わせください。



5.1 マルチチャンネルの接続

3台のPM-12をF.C.B.S.接続して連動動作させます。F.C.B.S.接続のしかたは「接続例」(P.11ページ)をご覧ください。

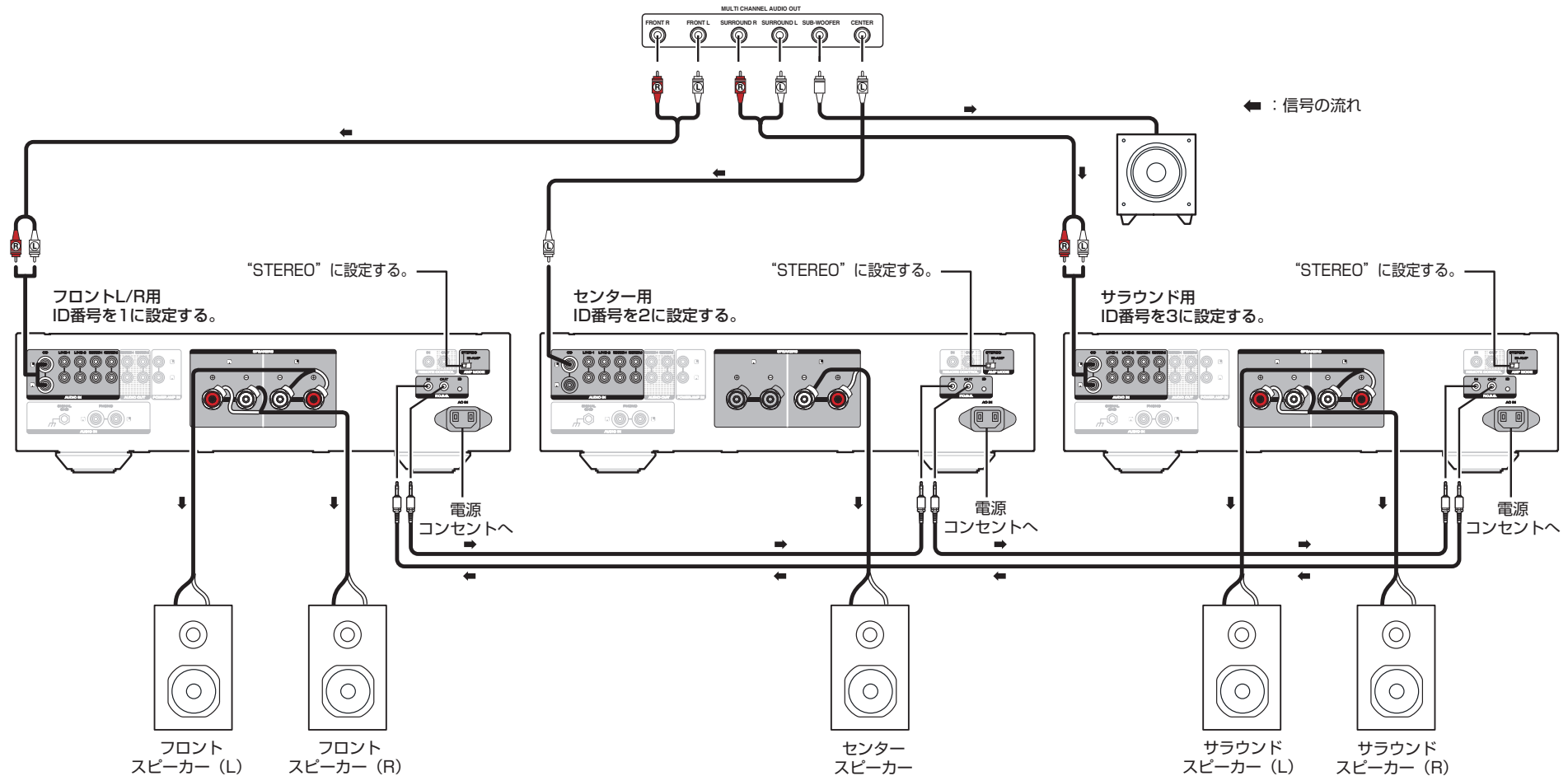
5.1チャンネルアナログ出力を持つプレーヤーの出力をそれぞれ3台のアンプに接続します。

サブウーハーを使用する場合は、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。

3台のアンプのID番号を「ID番号の設定のしかた」(P.12ページ)を参照して設定してください。

- ID番号1のアンプを操作すると、ID番号2およびID番号3のアンプが連動して動作します。

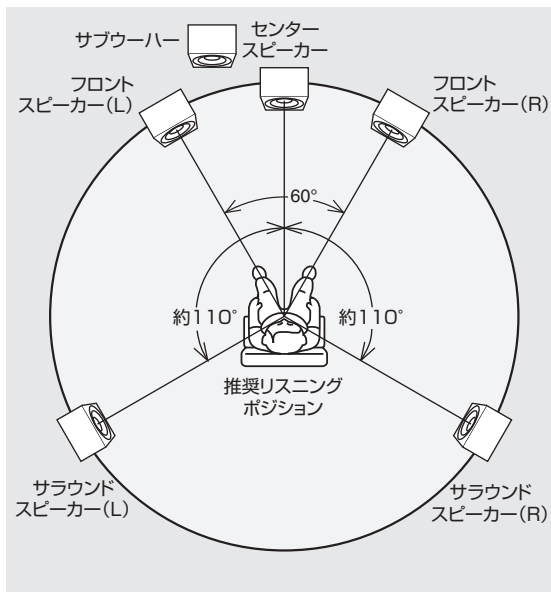
スーパーオーディオCDマルチチャンネルプレーヤーなど



□ スーパーオーディオ CD マルチチャンネル再生時のスピーカー設置について

スーパーオーディオ CD マルチチャンネルを最適な音場でお楽しみいただくには、ITU(国際電気通信連合)が定めた規格である「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置をおすすめします。スーパーオーディオ CD マルチチャンネルディスクは、「ITU-R BS.775-1 勧告」に準拠したスピーカーシステム配置で最適な音場が得られるようにレコーディングやミキシングがおこなわれています。

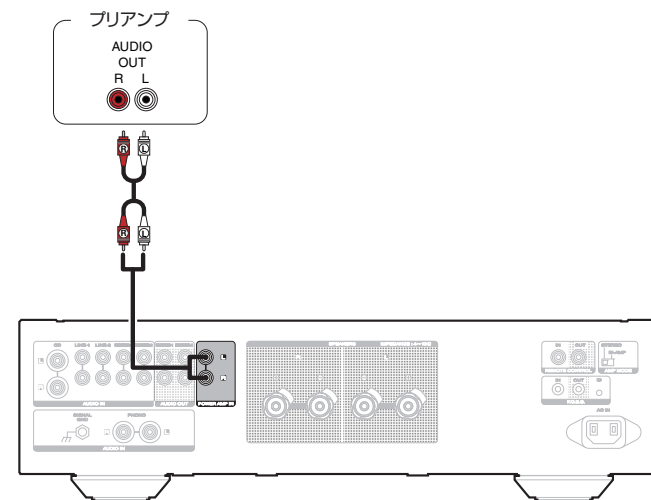
- スーパーオーディオ CD マルチチャンネルのディスクに記録されている音声信号は 5 チャンネル(3~6 も可能)が基本で、6 番目のチャンネルとして LFE(サブウーハー用)が記録されていることもあります。
- 記録されているチャンネル数はディスクに表示してあります。
- スピーカーシステムの数は、フロント側 3 本、サラウンド(リア)側 2 本の 5 本が基本です。右図のように、フロント(左右)、センター、サラウンド(左右)の各スピーカーシステムを、リスニングポジションを中心とする円周上に配置します。スピーカーシステムの大きさが異なるときは、アンプ側で各チャンネルの音量を調節してください。
- 図中のサブウーハーの位置は配置の一例です。実際はお部屋の環境に合わせて配置してください。サブウーハーの接続や設定方法は、サブウーハーの取扱説明書をご覧ください。



- ITU(International Telecommunication Union)
ITUとは「International Telecommunication Union(国際電気通信連合)」の略で、国際連合(UN)の専門機関の一つです。ITU-Rはその連合を構成する一つの部門で、「無線通信部門」です。
また勧告書のITU-R BSは「放送業務(音声)」に関する規格で、ITU-R BS.775-1はその中で「マルチチャンネル立体音響システム」について定められた規格です。

プリアンプを接続する

プリアンプをお持ちの場合は、次のように接続することで本機をパワーアンプとして使用できます。



1 本体の INPUT SELECTOR を回して、入力ソースを“PWR AMP”に切り替える。



- リモコンの入力ソース切り替えボタンで入力ソースを“PWR AMP”に切り替えることはできません。
- 入力ソースが“PWR AMP”のとき、音量調節、ミュート、音量バランス(LEVEL)および音質(BASS/TREBLE)の調節ができません。それらの調節は本機に接続しているプリアンプでおこなってください。
- 入力ソースが“PWR AMP”のとき、リモコンで入力ソースを切り替えることはできません。

ご注意

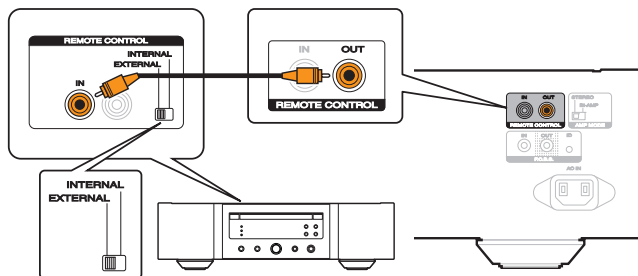
- 入力ソースが“PWR AMP”のとき、本機の音量は最大になります。再生する前に入力側の機器の出力レベルを確認し、音量を調節してください。

リモートコントロール端子付きの機器を接続する

マランツ製オーディオ機器をリモート接続する

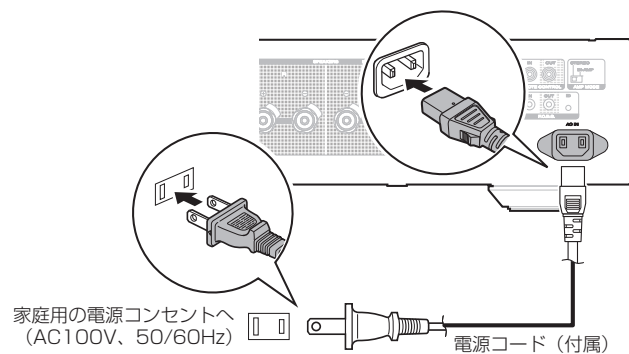
マランツ製オーディオ機器に付属しているリモート接続ケーブルを使用して REMOTE CONTROL IN/OUT 端子に機器を接続するだけでリモコン信号を転送できます。

この接続をおこなう場合は、本機と接続する機器の背面に装備されているリモートコントロールスイッチを“EXTERNAL”に設定してください。



電源コードを接続する

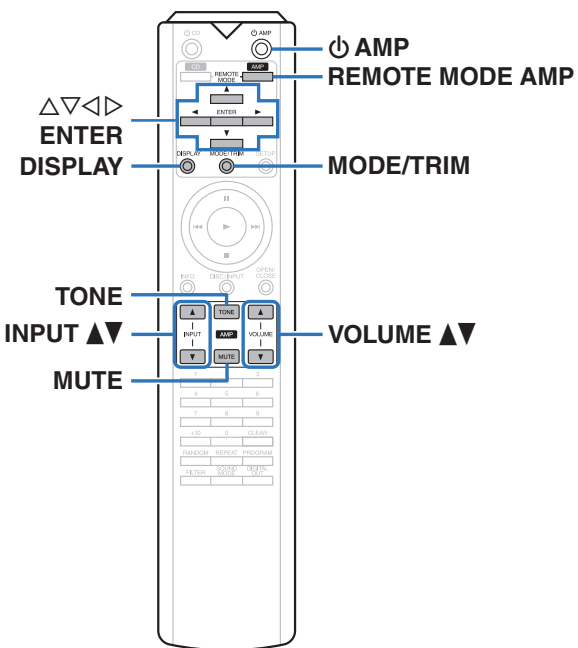
すべての接続が完了したら、電源プラグをコンセントに差し込みます。



再生のしかた

目次

電源を入れる	17
入力ソースを選ぶ	17
音量を調節する	17
一時的に音を消す(ミュート)	17
音量バランス(LEVEL)および音質(BASS/TREBLE)を調節する	18
ディスプレイの明るさを切り替える	19
イルミネーションランプを消灯する	19
CDを再生する	19
録音する	19



電源を入れる

1 本体の **⏻** を押して、電源を入れる。

- 電源表示が青色に点灯します。



- スタンバイ状態から再び電源を入れるときは、リモコンの **⏻** AMP を押してください。
- スタンバイ状態のときに本体の INPUT SELECTOR を回しても、電源がオンになります。

電源をスタンバイにする

1 リモコンの **⏻** AMP を押す。

STANDBY 表示が赤色に点灯します。

ご注意

- 電源をスタンバイ状態にしても、一部の回路は通電しています。長期間の外出やご旅行の場合は、本体の **⏻** を押して電源を切るか、電源プラグをコンセントから抜いてください。

入力ソースを選ぶ

1 INPUT ▲▼ を押して、再生する入力ソースを選ぶ。

ディスプレイに選んだ入力ソースを表示します。



- 本体の INPUT SELECTOR を回しても、入力ソースを選択できます。

音量を調節する

1 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。



- 本体の VOLUME を回しても、音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミュート)

1 MUTE を押す。

ディスプレイに“MUTE”を表示してミュートします。



- ミュートを解除するときは、もう一度 MUTE を押してください。
- MUTE を押したときに下がる音量を設定できます。メニューの“ATT LEVEL”でお好みに合わせて設定してください。(P.21 ページ)

音量バランス(LEVEL)および音質(BASS/TREBLE)を調節する

□ LEVEL を調節する

左右の音量を 0.5dB 刻みに 0.0dB から-9.0dB の範囲で調節します。

お買い上げ時は 0.0dB(最大)に設定しています。

1 MODE/TRIM を押す。

LEVEL 調節モードになります。

- F.C.B.S.接続で“スレープ”(11 ページ)を接続しているときは、ボタンを押すたびに音量バランス(LEVEL)および音質(BASS/TREBLE)調節する機器を切り替えます。

2 ◀▶ を押して、設定したいチャンネル(L または R)を選ぶ。

選んだチャンネルの音量表示が点滅します。

3 ▲▼ を押して、音量を調節する。



- 15 秒以上操作がない場合、設定を確定して通常表示に戻ります。

4 ENTER を押す。

LEVEL 調節モードを終了し、BASS 調節モードになります。“BASS を調節する”の手順 3 から低音の調節をおこなってください。

□ BASS を調節する

低音を 1dB 刻みに-6dB から+6dB の範囲で調節します。お買い上げ時は 0dB に設定しています。

1 MODE/TRIM を押す。

LEVEL 調節モードになります。

2 ENTER を押して、“BASS”を選ぶ。

BASS 調節モードになります。

3 ▲▼ を押して、低音を調節する。



- 15 秒以上操作がない場合、設定を確定して通常表示に戻ります。

4 ENTER を押す。

BASS 調節モードを終了し、TREBLE 調節モードになります。“TREBLE を調節する”の手順 3 から高音の調節をおこなってください。



- トーンコントロールがオフの状態では、設定が反映されません。TONE を押して、トーンコントロールをオン(TONE 表示:点灯)にしてください。

□ TREBLE を調節する

高音を 1dB 刻みに-6dB から+6dB の範囲で調節します。お買い上げ時は 0dB に設定しています。

1 MODE/TRIM を押す。

LEVEL 調節モードになります。

2 ENTER を 2 回押して、“TREBLE”を選ぶ。

TREBLE 調節モードになります。

3 ▲▼ を押して、高音を調節する。



- 15 秒以上操作がない場合、設定を確定して通常表示に戻ります。

4 ENTER を押す。

TREBLE 調節モードを終了し、通常表示に戻ります。



- トーンコントロールがオフの状態では、設定が反映されません。TONE を押して、トーンコントロールをオン(TONE 表示:点灯)にしてください。

ディスプレイの明るさを切り替える

ディスプレイの明るさを4段階で調節できます。ディスプレイの明るさを消灯にすると、音質に影響を与えるノイズ源を抑え、高音質な再生ができます。

1 DISPLAY を押す。

DISPLAY を押すたびに、ディスプレイの明るさが切り替わります。



- お買い上げ時のディスプレイの明るさは、最も明るい設定です。
- ディスプレイ消灯時に音量調節つまみなどを操作すると、ディスプレイが再点灯します。操作を終了すると、約2秒後に自動的に消灯します。
- ディスプレイの明るさを消灯にすると、イルミネーションランプも消灯します。

イルミネーションランプを消灯する

1 イルミネーションランプの点灯中に DISPLAY を2秒以上長押しする。

消灯から点灯に設定を変更するときは、再度 DISPLAY を2秒以上長押ししてください。

CDを再生する

ここでは、CDの再生のしかたを例に説明します。

1 本体の を押して、電源を入れる。

2 INPUT ▲▼ を押して、入力ソースを“CD”に切り替える。

ディスプレイに“CD”を表示します。

3 CDを再生する。

4 VOLUME ▲▼ を押して、音量を調節する。

録音する

本機に入力した音声信号を、外部の録音機器に出力することができます。本機に接続した再生機器の音声を録音する際、再生機器を本機に接続したまま録音できます。

1 本体の を押して、電源を入れる。

2 INPUT ▲▼ を押して、録音したい入力ソースに切り替える。

ディスプレイに選択した入力ソースを表示します。

3 録音をはじめる。

- 操作のしかたは、録音機器の取扱説明書をご覧ください。

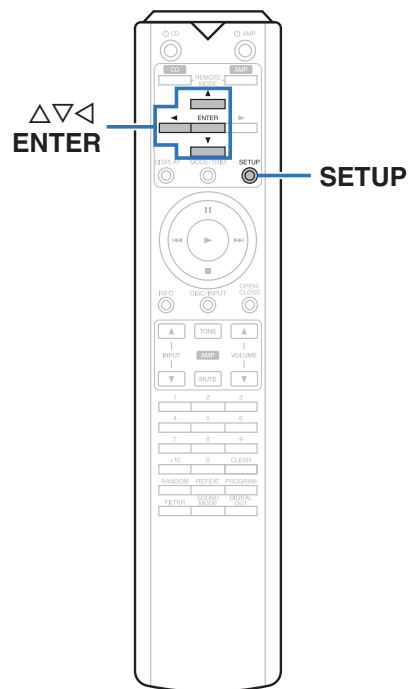
設定のしかた

メニュー 一覧

本機はお買い上げ時の設定をおすすめの設定にしております。ご使用のシステムやお好みに合わせて本機をカスタマイズすることができます。

設定項目	内容	参照ページ
PHONO	接続するレコードプレーヤーのカートリッジの種類に応じて、本機のフォノイコライザーを設定します。	21
AUTO STBY (Auto Standby)	音声の入力が無く、何も操作しない状態が 30 分以上続いたとき、自動的にスタンバイ状態になるように設定します。	21
ATT LEVEL (Attenuation Level)	MUTE ボタンを押したときに音量をどれくらい下げるかを設定します。	21

メニューの操作のしかた



- 1** **SETUP** を押す。
ディスプレイにメニューを表示します。
- 2** **△▽** を押して設定または操作したいメニューを選び、**ENTER** を押す。
- 3** **△▽** を押して、お好みの設定に変更する。
- 4** **ENTER** を押して、設定を確定する。
 - 前の項目に戻るときは、**<** を押してください。
 - メニューを終了するときには、メニュー表示中に **SETUP** を押してください。通常表示に戻ります。

PHONO

接続するレコードプレーヤーのカートリッジの種類に応じて、本機のフォノイコライザーを設定します。

MM	MM カートリッジの場合に設定します。 (お買い上げ時の設定): す。
MC:	MC カートリッジの場合に設定します。

ご注意

- 本設定の切り替え操作をおこなったとき、約 4 秒間音声をミュートします。

AUTO STBY(Auto Standby)

音声の入力がない状態で本機を約 30 分間操作しないとき、自動的にスタンバイになるように設定します。

ON:	本機をオートスタンバイモードに設定します。
OFF	本機をオートスタンバイモードに設定(お買い上げ時の設定): 定しません。



- 自動的にスタンバイになる 3 分前から、ディスプレイに残り時間を表示します。
- F.C.B.S.接続で使用した場合、オートスタンバイの検出は ID1 マスターでのみおこないます。ID1 マスターに音声入力がない状態で使用する場合は、オートスタンバイモードの設定をオフにしてください。

ATT LEVEL (Attenuation Level)

MUTE ボタンを押したときに音量をどれくらい下げるかを設定します。

-20dB / -40dB / -∞(お買い上げ時の設定:-∞)



- -20dB または-40dB に設定した状態で MUTE ボタンを押すと、ディスプレイに“ATT”を表示します。
- -∞に設定した状態で MUTE ボタンを押すと、ディスプレイに“MUTE”を表示します。
- 設定を解除して元の音量に戻したい場合は、もう一度 MUTE ボタンを押してください。

困ったときは

□ 目次

こんなときの解決方法

MUTE ボタンを押したときに音量をどれくらい下げるか設定したい	23
イルミネーションランプを点灯しないようにしたい	23
PM-12 を複数台使用して高品位な再生をおこないたい	23
本機のリモコンを使ってマランツ製 CD プレーヤーを操作したい	23
本機をパワーアンプとして使用したい	23

故障かな?と思ったら

電源が入らない / 電源が切れる	24
リモコンで操作ができない	25
音がまったく出ない	25
希望する音が出ない	26
音がひずんだり、ノイズが入ったりする	26
エラーメッセージについて	26

こんなときの解決方法

MUTE ボタンを押したときに音量をどれくらい下げるか設定したい

- -20dB、-40dB、-∞のいずれかに設定できます。(🔍 [21 ページ](#))

イルミネーションランプを点灯しないようにしたい

- イルミネーションランプの設定を消灯にしてください。(🔍 [19 ページ](#))

PM-12 を複数台使用して高品位な再生をおこないたい

- ステレオコンプリートバイアンプ接続をおこなってください。(🔍 [12 ページ](#))
- マルチチャンネル接続をおこなってください。(🔍 [14 ページ](#))

本機のリモコンを使ってマランツ製 CD プレーヤーを操作したい

- リモコンの REMOTE MODE CD ボタンを押して、リモコンを CD プレーヤーの操作モードに切り替えてください。(🔍 [8 ページ](#))
- CD プレーヤーの操作方法については、CD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

本機をパワーアンプとして使用したい

- プリアンプを本機の POWER AMP IN 端子に接続してください。(🔍 [15 ページ](#))

故障かな?と思ったら

最初に次のことを確認してください。

1. 各接続は正しいですか
2. 取扱説明書に従って正しく操作していますか
3. スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正しく動作しないときは、該当する症状に従ってチェックしてみてください。

なお、どの症状にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でもおわかりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

□ 電源が入らない / 電源が切れる

症状	原因 / 対策	関連ページ
電源が入らない。	<ul style="list-style-type: none">• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。	16
電源が自動的に切れる。	<ul style="list-style-type: none">• オートスタンバイモードがオンになっています。音声入力がない状態で約 30 分間本機を操作しないしていると、本機は自動的にスタンバイになります。オートスタンバイモードを解除するには、メニューの“AUTO STBY”を“OFF”に設定してください。	21
電源が切れ、STANDBY 表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	<ul style="list-style-type: none">• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。電源が切れている状態で、1 時間程度待ち、本機の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。	28
	<ul style="list-style-type: none">• 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	—
	<ul style="list-style-type: none">• スピーカーの接続を確認してください。スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいている可能性があります。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端未処理をするなどしたあとで、接続し直してください。	9
	<ul style="list-style-type: none">• 音量を下げて、電源を入れ直してください。• 本機のアンプ回路が故障しています。電源コードを抜き、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	17 —

□ リモコンで操作ができない

症状	原因 / 対策	関連ページ
リモコンで操作ができない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	3
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	3
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	—
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	3
	• 本機のリモコン受光部に強い光(直射日光、インバーター式蛍光灯の光など)があたっています。受光部に強い光があたらない場所に設置してください。	—
	• 3D 映像機器をご使用の場合、各ユニット間(テレビや 3D 視聴用メガネなど)の無線通信の影響によって本機のリモコンが効かなくなることがあります。その場合は、3D 通信の各ユニットの向きと距離を調節して、本機のリモコンの動作に影響がないことを確認してください。	—
	• リモコンの REMOTE MODE AMP ボタンを押して、リモコン操作モードを“AMP”にしてください。	7

□ 音がまったく出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
スピーカーから音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。	9
	• 接続ケーブルを奥まで挿してください。	—
	• 入力端子と出力端子を間違えて接続していないか確認してください。	—
	• ケーブルが破損していないか確認してください。	—
	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。ケーブルの芯線がスピーカー端子の金属部に接触していることを確認してください。	9
	• スピーカー端子をしっかり締めてください。また、スピーカー端子が緩んでいないか確認してください。	9
	• 適切な入力ソースが選択されていることを確認してください。	17
	• 音量を適切な大きさに調節してください。	17
	• ミュート(消音)モードを解除してください。	17
	• 本体のヘッドホン端子にヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカー端子から音が出なくなります。	5

□ 希望する音が出ない

症状	原因 / 対策	関連ページ
特定のスピーカーから音が出ない。	• スピーカーケーブルが正しく接続されていることを確認してください。	9
	• 左右の音量バランスを調節してください。	18
ステレオ再生のときに、左右の音声が入れ替わっている。	• 左右のスピーカーが正しいスピーカー端子に接続されているか確認してください。	9

□ 音がひずんだり、ノイズが入ったりする

症状	原因 / 対策	関連ページ
レコード再生のときに、音がひずむ。	• 針圧を調節してください。	—
	• レコードの針先を確認してください。	—
	• カートリッジを交換してください。	—
レコード再生のときに、“ブーン”という雑音がスピーカーから出力される。	• レコードプレーヤーが正しく接続されていることを確認してください。	10
	• レコードプレーヤーの近くにテレビや AV 機器などがあると、再生音に影響を受ける場合があります。レコードプレーヤーをテレビや AV 機器などから離して設置してください。	—
レコード再生のときに音量を大きくすると、“ワーン”という雑音がスピーカーから出力される。(ハウリング現象)	• レコードプレーヤーとスピーカーを離して設置してください。	10
	• スピーカーの振動が床を通してプレーヤーに伝わる場合があります。スピーカーの振動をクッションなどで吸収させてください。	—
本機を通して録音した音声がひずんでいる。	• 本機に録音機器を 2 台接続している場合、両方の録音機器の電源を入れて録音してください。片方の録音機器のみ電源を入れて録音すると、録音機器によっては、電源オフ状態の録音機器がもう一方の録音機器に録音する音声をひずませる場合があります。	19

エラーメッセージについて

F.C.B.S.接続で PM-12 を複数台使用した場合、ディスプレイに次の表のようなエラーメッセージが表示されることがあります。このような場合は ID 番号の設定やリモートケーブルの接続に問題があります。次の表を参考にして ID 番号やリモートケーブルの接続が正しいかを確認してください。ID 番号の設定のしかたは、「F.C.B.S.の ID 番号の設定のしかた」([12](#) ページ)をご覧ください。

表示	意味	原因 / 対策
ERROR 02	ID 番号 2 のアンプが重複しています。	• ID 番号が重複しないように ID 番号を設定してください。
ERROR 03	ID 番号 3 のアンプが重複しています。	
ERROR 04	ID 番号 4 のアンプが重複しています。	
ERROR 11	ID 番号 2~4 のアンプが ID 番号 1 のアンプと通信できません。	• ID 番号 1 のアンプの電源が入っていない場合は電源を入れてください。 • リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。
ERROR 12	ID 番号 1 のアンプが ID 番号 2~4 のアンプと通信できません。	• ID 番号 1 のアンプが重複している場合は ID 番号を正しく設定してください。 • ID 番号 1 のアンプに ID 番号 0 のアンプを接続している場合は、ID 番号を正しく設定してください。 • リモートケーブルが正しく接続されているか確認してください。

保証と修理について

□ 保証書について

- この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

□ 保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

- 保証書が添付されない場合は有料修理になりますので、ご注意ください。

□ 保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。

□ 修理料金のしくみ

- 技術料……故障した製品を正常に修復するための料金です。
技術者の人件費・技術教育費・測定機器などの設備費・一般管理費などが含まれます。
- 部品代……修理に使用した部品代金です。
その他修理に付帯する部材などを含む場合もあります。
- 出張料……製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。
別途駐車料金をいただく場合があります。

□ 補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後 8 年です。

□ 修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

- 取扱説明書の「故障かな?と思ったら」の項目をご確認ください。
- 正しい操作をしていただかずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

- 修理お問い合わせ窓口へご相談ください。
- 出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただきます。
- 修理を依頼されるためのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

□ 依頼の際に連絡していただきたい内容

- お名前、ご住所、お電話番号
- 製品名……取扱説明書の表紙に表示しています。
- 製造番号……保証書と製品背面に表示しています。
- できるだけ詳しい故障または異常の内容

□ お客様の個人情報の保護について

- お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
- この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者(保証責任者)およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

用語の解説

MM/MC カートリッジ

レコードプレーヤーに取り付けるカートリッジには、MM 型 (Moving Magnet) と、MC 型 (Moving Coil) の 2 種類があります。出力レベルがそれぞれ異なるため、本機に搭載しているフォノイコライザーアンプの設定を、お使いのカートリッジの種類に合わせて切り替える必要があります。設定の切り替えは設定メニューの“PHONO”でおこなってください。
([p.21 ページ](#))

スピーカーインピーダンス

交流抵抗値のことで Ω (オーム) という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

保護回路

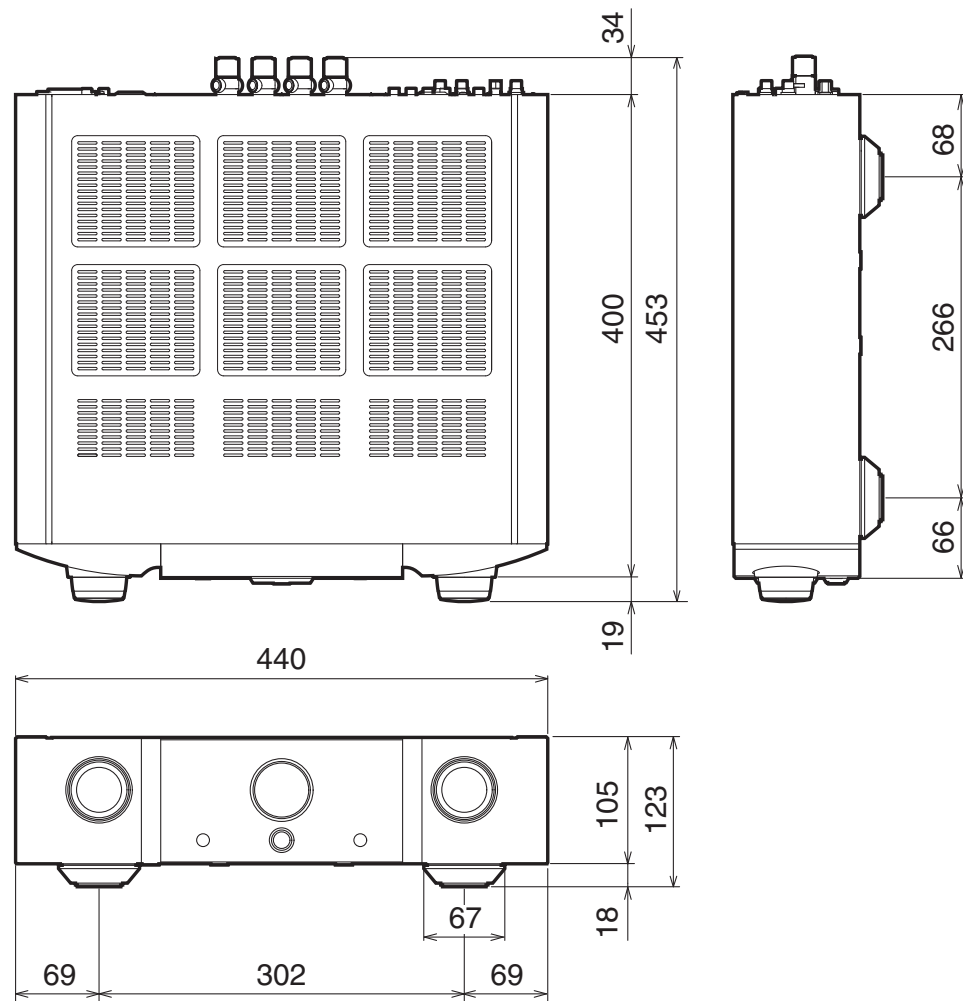
何らかの原因で過負荷や過電圧、高温状態などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。

主な仕様

• 定格出力(両チャンネル同時駆動):	100W x 2(負荷 8Ω、1kHz、T.H.D. 0.05%) 200W x 2(負荷 4Ω、1kHz、T.H.D. 0.1%)
• 全高調波歪率: (1kHz、両チャンネル同時駆動、100W、負荷 8Ω)	0.005%
• 周波数特性(CD、1W、負荷 8Ω):	5Hz~50kHz ±3dB
• ダンピングファクター(負荷 8Ω、20Hz~20kHz):	500
• 入力感度/ 入力インピーダンス	
PHONO(MC):	250μV/100Ω
PHONO(MM):	2.3mV/39kΩ
CD/LINE/RECORDER :	220mV/13kΩ
POWER AMP :	1.1V/13kΩ
• PHONO 最大許容入力(1kHz)	
MC :	8mV
MM :	80mV
• RIAA 偏差(20Hz~20kHz):	±0.5dB
• S/N 比(IHF A ネットワーク、負荷 8Ω)	
PHONO(MC):	75dB(0.5mV 入力)
PHONO(MM):	88dB(5mV 入力)
CD/LINE/RECORDER :	107dB(定格出力)
• トーンコントロール	
BASS(50Hz):	±6dB
TREBLE(20kHz):	±6dB
• 電源:	AC100V、50/60Hz
• 消費電力:	130W
• スタンバイ時の消費電力:	0.2W

仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。

□ 寸法(単位:mm)



□ 質量: 15.3kg

索引

㊦ C		㊦ ち		㊦ み	
CD プレーヤー	10, 19	チューナー	10	ミュートイング	17
㊦ F		㊦ て		㊦ め	
F.C.B.S.制御	11	ディスプレイの明るさ	19	メニュー 一覧	20
㊦ お		㊦ に		㊦ り	
オートスタンバイモード	21	入力ソース	17	リアパネル	6
音量	17	㊦ ね		リモートコントロール	16
㊦ こ		ネットワークオーディオプレーヤー	10	リモコン	7
故障かな?と思ったら	24	㊦ ぶ		㊦ れ	
こんなときの解決方法	23	フロントパネル	5	レコードプレーヤー	10
㊦ す		㊦ ほ		㊦ ろ	
スピーカー	9	保護回路について	28	録音機器	10
スピーカーインピーダンス	28				








当社製品のご相談と修理についてのお問い合わせは、お買い上げ店または下記窓口にご連絡ください。

お客様相談センター

 0570 (666) 112


FAX : 044 (330) 1367

- 受付時間 9:30 ~ 17:30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
- 上記番号がご利用いただけない場合  050 (3388) 6801
〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル
- お問い合わせをいただく前に、ホームページのFAQをご確認ください。
<http://marantz.jp/jp/html/faq.html>
- メールでお問い合わせをいただくこともできます。
<http://marantz.jp/jp/html/contact.html>

* 電話番号・ファックス番号・URL は変更になる場合があります。

修理相談窓口

 0570 (666) 811

- 受付時間 9:30 ~ 12:00、13:00 ~ 17:30
(当社休日および祝日を除く、月~金曜日)
- 上記番号がご利用いただけない場合  0466 (86) 9520
- 故障・修理・その他のサービス関連情報については、次の当社ホームページでもご確認いただけます。
<http://marantz.jp/jp/html/service.html>
- 代表修理窓口
首都圏サービスセンター
〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤2010-16
FAX : 0466 (86) 9522

* ディーアンドエムホールディングス本社では製品の修理を受け付けておりません。

marantz®

株式会社 ディーアンドエムホールディングス

〒210-8569

神奈川県川崎市川崎区日進町2番地1 D&Mビル